

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0172000440		
法人名	宗教法人 真正寺		
事業所名	グループホーム ハーモニー		
所在地	小樽市長橋2丁目19番28号		
自己評価作成日	平成28年2月22日	評価結果市町村受理日	平成28年3月22日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2015_022_kani=true&JigyosyoCd=0172000440-00&PrefCd=01&VersionCd=022
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社 ふるさとネットサービス
所在地	札幌市中央区北1条西7丁目1 あおいビル7階
訪問調査日	平成 28 年 3 月 10 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当事業所は、お寺にて経営を行っております。仏教は「すべてはご縁によって起る」ことを説き、ご縁を大切にすることを教えといわれます。全ての頂いたご縁は、私達の都合を差しおいて正面から受け止め、前向きに生きることを勧めながらケアを行っております。
お一人お一人の個性や気持ちを大切に、何事もお縁から始まる事ですので共に協力し合いながら生活を行っております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

Ⅴ サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取組を自己点検した上で、成果について自己評価します							
項 目		取組の成果 ↓ 該当するものに○印		項 目		取組の成果 ↓ 該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向をつかんでいる (参考項目:23、24、25)	○	1 ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9、10、19)	○	1 ほぼ全ての家族と
			2 利用者の2/3くらいの				2 家族の2/3くらいと
			3 利用者の1/3くらいの				3 家族の1/3くらいと
			4 ほとんどつかんでいない				4 ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18、38)	○	1 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2、20)	○	1 ほぼ毎日のように
			2 数日に1回程度ある				2 数日に1回程度
			3 たまにある				3 たまに
			4 ほとんどない				4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1 ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1 大いに増えている
			2 利用者の2/3くらいが				2 少しずつ増えている
			3 利用者の1/3くらいが				3 あまり増えていない
			4 ほとんどいない				4 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36、37)	○	1 ほぼ全ての利用者が	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11、12)	○	1 ほぼ全ての職員が
			2 利用者の2/3くらいが				2 職員の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが				3 職員の1/3くらいが
			4 ほとんどいない				4 ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1 ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが				2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが				3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない				4 ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30、31)	○	1 ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1 ほぼ全ての家族等が
			2 利用者の2/3くらいが				2 家族等の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが				3 家族等の1/3くらいが
			4 ほとんどいない				4 ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1 ほぼ全ての利用者が				
			2 利用者の2/3くらいが				
			3 利用者の1/3くらいが				
			4 ほとんどいない				

有限会社 ぷ

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念を作り、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	宗教法人の考えを踏まえた理念を作っています。運営理念はロッカーやユニット内やエレベーターに掲示し、管理者や職員が毎日見る事によって理解し共有し実践につなげる様に努めていますが完璧に出来ていません。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	事業所としては地域の行事の手伝いを協力し、入居者様は頻回ではありませんが地域のお祭り等に参加しています。また、個別でも地域にあるスーパー等買い物へ行き交流しています。		
3	3	○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	事業所的には具体的に活かしている事はありませんが、地域より依頼があればいつでも行います。		
4		○運営推進会議を活かした取組 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	事業所の実情やサービスの取組状況の報告、話し合い等を行っています。大切なご意見を元に可能な事はサービスの向上に活かしていますが、中には出来ない事も有ります。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市役所の各課や地域包括支援センター等と必要時に連絡を取り協力しています。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	夜間は防犯上の都合で玄関の施錠をしています が、それ以外は施錠は行っていません。職員は正しく理解したうえで、センサーを配置し身体拘束しないケアに取り組んでいます。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	「虐待防止法等に関わる認知症の方の思い等」について内部研修があり、職員同士が虐待を見逃さないように注意を払い防止に努めています。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護に関する制度を全職員が学んではいませんが、日常生活自立支援事業や成年後見制度を利用している入居者様がいますので、必要時に話し合いを行い活用できる様に支援しています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約に関して説明する時は、理解や納得される様に細かく解りやすい言葉で説明させて頂いていますが、不明な点は再度説明する対応を行っています。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご意見やご要望があった時には話し合いを行い、時には運営推進会議の議題として御家族のご意見の確認や報告を行い、運営に反映させている事も有ります。		
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	代表者や管理者は、職員の意見や提案をその都度聞いて下さっていますが、今の所あまり意見が出ていません。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	処遇改善手当や労働時間の短縮など行って頂き、やりがいや働きやすい職場環境なので、向上心を持って働ける環境だと思います。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内部研修が年に数回行われており、外部研修も働きながらトレーニング出来る様に勧められたり研修を受ける機会を確保して下さっています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組をしている	今年は相互訪問をしておりますが、介護力を向上出来る研修や勉強会に参加出来る様に機会を作ってお下り、参加する事によって質の向上が出来る様に取り組んでいます。		
Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前にご本人と面談等を行い、不安にならず安心出来る様に要望など耳を傾けて、細かい事にも気を配りながら良い関係づくりに努めています。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	色々な情報や御家族のニーズを確認し、不安な事や要望に応えられるように職員皆で理解したうえで、徐々に信頼関係を築き安心して生活出来るように努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人や御家族からニーズをお聞きし、細かい事も全て記録して必要としている支援を見極めて、サービスを提供出来るように努めています。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	残存機能を維持する為にもお手伝いをして頂いていますが、ご本人の性格や能力に応じて対応しています。又、お手伝いをただ頼むのではなく、助けて頂いている気持ちを伝え暮らしを共にする者同士の関係作りをしています。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	御家族が来られた際、ご本人とゆっくりと過ごして頂き、時には職員と一緒に介助を行なっています。また、ご本人の状態等を日頃から御家族の方に相談して、一緒に考えながら共に支えていける様に支援しています。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの方が面会に来られる入居者様もおられます。また、病院や美容室など馴染みのある所を利用して頂ける様にしています。中には御家族やご本人の都合で途切れてしまった方もいます。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	一人ひとりの関係を把握し、孤立しない様に間に入り楽しく過ごせる様にレクリエーションなどを計画し参加して頂いていますが、一人でゆっくり過ごしたい方もいるので、その都度、その時に適した支援を行っています。		
22		○関係を断ち切らない取組 サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後、殆どの方は関係が無くなってしましますが、会いに来られる方もいます。相談が有れば支援する様に努めています。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々、生活されている様子を観察し、ご本人の言葉に傾聴しご本人の意向の把握に努めています。また、困難な場合は、もし自分がご本人だったと考え、より良い方法を考えさせて頂いています。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	一人ひとりの生活歴を把握出来るよう、御家族が面会に来られた時にお話を聞かせて頂いていますが、全てを把握出来ている訳ではないと思いますので、これからも把握出来る様に努めていきたいです。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一緒に生活している中で、現状の把握が出来る様に努めていますが、もっと理解していける様に情報を共有に努めたいと思っています。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	入居者様や御家族の意見などを反映し、職員同士でも意見やアイデアを出し合いながら可能な限り個々に合った介護計画を作成していますが、時には少々合わない介護計画になってしまう場合もあり、その際には再検討を行う様にしています。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	何かある時は特に細かく記録して申し送りをする事で、職員間で情報を共有しながら、より良い方法を考え実践して、その結果も細かく記録しています。また、その記録などを確認し職員と話した内容を元に介護計画の見直しに活かしています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスにとらわれない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	デイサービスが隣設されている為、デイサービスのカラオケを使用しに行かれる方や、遊びに行かれる方もいます。また、お寺もあるので、お寺の中を見学に行かれている方もおり、ニーズに対して可能な限り支援しています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	一人ひとりの状態によっても違いますが、入居者様が喜ばれる地域の食や場所などや地域の行事を楽しめる様に支援しています。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診時は、今まで本人が通院されていた病院へ受診して頂き、新しい病院へ受診が必要な時は、御本人や御家族に現状を伝えて相談を行ってから受診を行います。また、医師にも現状を細かく話し適切な医療を受けられるように支援しています。		
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日常の関わりの中で捉えた情報や変わった事などがあった時は、その都度、看護師に伝えて相談しています。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている、又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	早期に退院出来るよう身体状況の確認を行い、病院関係者と協力して支援しています。また、職員が個々にお見舞いに行った際は、様子を個別の記録に記入し様子を周知し、職員で情報を共有出来る様にしています。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者とともにチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合や終末期について、早い段階からご本人や御家族と話し合いを行い、どうして欲しいか明確にしておき、看取りが出来る様に病院関係者と共に支援させています。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルやAEDは有りますが、全ての職員が訓練を定期的には行っていません。対応が出来ない事が有った時には管理者に連絡しているのが現状です。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災訓練は消防署員に来て頂き、避難訓練を定期的に行いますが、実際に直面した事がなく不安はあります。又、備蓄も有り、近隣のグループホームと協力関係を築いています。		
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりに応じて、どの様に接すると良いか考えて言葉かけや対応をしています、職員の気遣いが不足して対応が上手くいかない事も有ります。入居者様の為にも、日々、職員が力を付けていく必要があります。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人の思いや希望を表す事が出来る方には、自己決定出来るよう提案させて頂いていますが、中にはご自分で自己決定が出来ない方もいます。職員が決定してしまう事もありますが、希望の表出や自己決定が出来る様に、職員側の努力がもう少し必要です。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望に沿って支援している	入居者様のペースを大切に過ごして頂いていますが、その時の状況によって、職員側の都合になってしまう時があるので、個々に合わせて職員側の都合にならない様にする努力が必要です。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	一人ひとりによって好みは違いますが、美容室行かれたり、化粧品などでおしゃれが楽しめる様に、本人の求められる物を一緒に買いに行くなど支援をしています。又、ご自分で出来ない方には昔からの思考を出来るだけ把握し支援する様にしています。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事が楽しめるよう、ご本人の嫌いな物は代替を行い、食事形態の変更も行っています。又、準備や片付けも個々の持っている能力に合わせお手伝いをしています。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事や水分の摂取量が減ってきている時は、摂取量をチェックする様にしています。又、摂取量が減ったままにならない様に、声掛けや栄養バランスを考えてお出しする物も考え提供させて頂いています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、一人ひとりに合った介助にて口腔ケアが出来る様に支援させて頂いています。口腔内に変化がある場合は、病院の受診を行っています。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	トイレでの排泄が出来る様にチェックなどをを行い、排泄や習慣を把握して自立に向けて支援していますが、身体や認知的問題でトイレでの排泄が困難になり、おむつの使用が多くなっているのが現状です。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	職員は便秘に対する理解はしています。毎日、体操や乳製品などを提供や水分調整などの対応しています。又、個々に応じて乳製品の量を変更したりして予防に取り組んでいます。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に沿った支援をしている	入浴の前に声掛けを行い入浴して頂いています。他の入居者様と時間がぶつかってしまう際は、入居者様同士で決めて頂いていますが、全ての希望やタイミングを合わせる事は、実際困難であり職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまっているのが現状です。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの体力に応じて、生活習慣や疲れている時に休んで頂く様にしています。又、安心して気持ちよく眠られる様に、寝具などを配慮させて頂いています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	用法や用量等医師の指示通りに服薬支援を行い、症状など変化をば記録し、主治医にすぐに連絡を取る様にしています。又、服薬ミスがおこらない様に取り組んでいます。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	レクレーションや行事だけではなく、力を活かした役割を行って頂いています。又、参加される時にご本人の好きな話や歌、行いたい事などを楽しみながら出来る様に支援しています。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望に沿って、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	可能な限り、買い物や喫茶店などご本人の希望に沿って出かけ、時には御家族にも協力して頂きながら楽しんで外出が出来る様に支援していますが、冬場は外出頻度が減ってしまっています。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	職員はお金を使用する大切さを理解したうえで、ご本人が欲しい物や行きたい場所がある時には、御家族に確認を行い、お預かりしているお小遣いで一人ひとりの力に応じて使える様に支援しています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人の希望に応じて電話をされたり、中には携帯電話を持っている方もいますので、使用方法が分からない時などは支援しています。手紙のやり取りも、個々に合わせた対応方法で支援しています。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	フロア等では、季節を取り入れた飾り付けをする様に心掛けています。共用空間では、不快や混乱を招かない様に必要最低限の物しか置かない様に配慮しています。また、室温や湿度、光の調整を行い居心地のよい空間作りを行っています。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間には、ソファや食卓椅子が有りますが、その時の状況に応じて居場所の工夫を行い、ゆっくりと過ごして頂いています。又、お独りになりたい場合は、居室で過ごせる様に配慮させて頂いています。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室はご本人の使い慣れた物や馴染の物を置く様にし、配置などにもご本人や御家族と相談しながら変えたりと居心地良く過ごせる様に対応しています。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人ひとりの「できること」「わかること」を理解したうえで、残存機能を活かしながら自立した生活が出来る様に場所や物などが分かる工夫などを行っています。		